入選

新鮮な息吹

松岡　智恵子　　長野県松本市　　五十七歳

夫の定年を機に帰った信州に、日本一標高の高い空港を取り巻くように公園がある。

最初こそ「公園で散歩なんてお年寄りみたい」と渋っていた私だが、行ってみて驚いた。樹林の中や花を見ながら歩いていると、とにかく気持ちが良いのだ。

春には菜の花、ドウダンツツジ、ハナミズキが咲き、桜並木を楽しむ。夏にはバラ、ラベンダー、ヤマボウシそしてひまわり、まさに百花繚乱。秋にはお約束のコスモス、ヤブラン、ツワブキが咲いている。私はハナミズキやムラサキシキブが実をつけることを、この公園ではじめて知った。冬はオニグルミ、マンサクが冬芽を、アブラチャンやダンコウバイが可愛らしい丸い花芽をつける。

そして四季を通して散歩をしていると、何と多くの職人さんたちと出会うことか。木を剪定し、花を植える。特に冬は大切だ。厳しい寒さの中、次の季節への準備を怠らない。そして近くの施設の子どもたちも、花が枯れないようにボランティアで手入れをしている。だからこんなに樹が、花が、生き生きしているのだ。夫と私はアルプスを背景に、みなさんの「作品」を毎日鑑賞し、楽しんでいる。

公園を夫と歩きながら、「これは何の木だろう」「この花は良い香りがするね」よく話しをするようになった。これまで何とも味気ない会話しかしてこなかった二人なのに不思議なことだ。花木たちは私たちに、新鮮な息吹も与えてくれたようだ。